

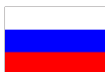
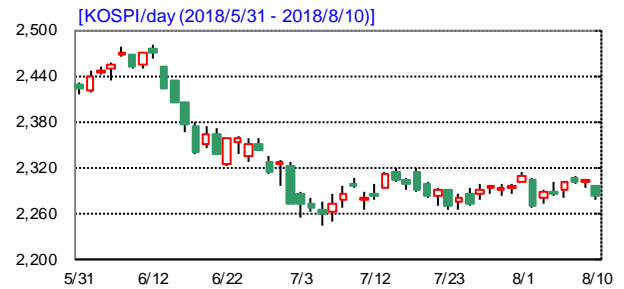


【韓国】 総合指数は週間で 0.2%安と続落、今週は 2300 ポイントを試す展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 0.2%安と小幅に続落した。週を通じておおむね心理的節目の 2300 ポイント付近の狭いレンジで推移。米株高や中国の景気対策へ期待から 7-9 日に続伸したものの、10 日に 4 日ぶりに反落し、この水準を割り込んで終えた。英国で起きた元ロシア情報員暗殺未遂事件を理由に、米国が新たな対ロシア制裁を発表。これにロシアが強く反発したことで、主要国間の貿易摩擦の激化が警戒された。セクター別では、IT と消費財の下げが重荷。半面、ヘルスケアが買われた。今週は再び 2300 ポイントを試す展開か。米長期金利や韓国ウォン相場が材料視されるだろう。韓国企画財政省は 10 日発表の月報で、米連邦準備理事会（FRB）の追加利上げや原油価格の上昇が景気の下振れリスクになり得るとの見方を示した。

▼指数チャート

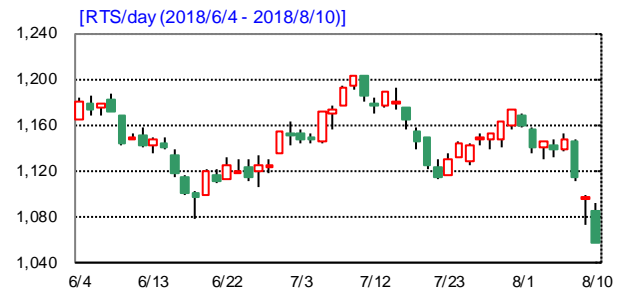


【ロシア】 RTS 指数は 7.7%安と大幅に続落、今週も米国による制裁問題が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 7.7%安と大幅に続落。米国による対ロ経済制裁への警戒感や原油相場の下落が重しとなった。週初は前週末の水準でもみ合ったが、8 日に米国による追加経済制裁法案の原案とされるものがロシアの日報に掲載されたことで株式や通貨ルーブルが急落した。米上院は米大統領選への関与に加え、シリアやウクナイナを巡る問題への制裁としてロシアの国営銀行の米国内での営業停止やロシア国債の保有禁止などを検討すると報じられた。原油相場が 8 日に急落したことも嫌気され、RTS 指数は 8 日に前日比 2.9%安、9 日に 1.5%安、10 日に 3.7%安と大幅に 3 日続落。週間では 88.15 ドル安の 1056.93 ドルで終了し、昨年 8 月以来の水準まで下落した。今週は米国による経済制裁問題が引き続き焦点か。

▼指数チャート



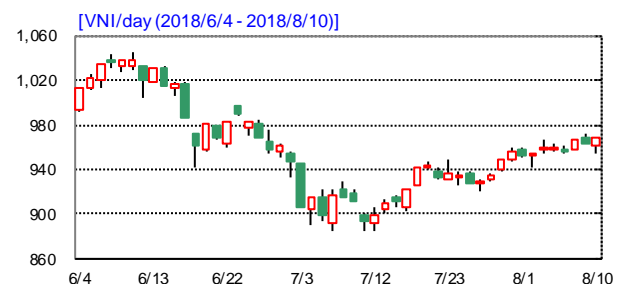
【ベトナム】 ベトナム指数は 0.9%高と 4 週続伸、今週は貿易摩擦が上値圧迫要因か

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.9%高と 4 週続伸。新興国からの資金流出懸念の後退が下値を支えたものの、米中貿易摩擦の泥沼化懸念が上値を抑えた。週前半は前週末の水準を挟んでもみ合ったが、8 日はフィリピン株の上昇を追い風に前日比 1.0%高と反発。ペトロベトナム・ガスやベトナム投資開発銀行など時価総額上位の銘柄が軒並み上昇し、指数を押し上げた。ただ、その後は米中貿易戦争の激化が懸念されたほか、米国が新たな対ロシア制裁を発表したことを受けて、貿易を巡る各国間の緊張が高まった。VN 指数は 9 日に 6 月 28 日以来となる 972.52 ポイントまで上昇し、週間では 8.87 ポイント高の 968.47 ポイントで終了。年初来では 1.6%安となった。今週は米中を中心とした貿易摩擦問題が引き続き上値を圧迫する要因か。

▼指数チャート

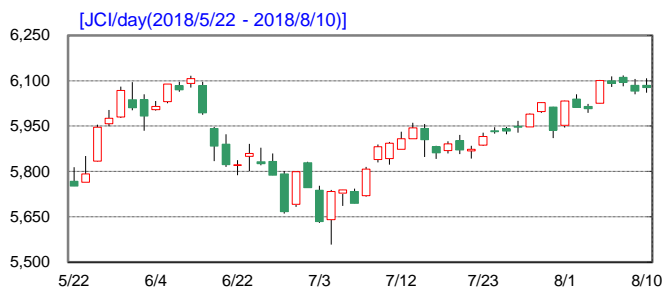


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.2%高、4-6 月期の GDP 成長率を好感

ジャカルタ総合指数は週間で 1.2%高と 3 週続伸。一進一退を繰り返しつつ上値を伸ばした。週初の 6 日は 4-6 月期の GDP 成長率が前年同期比 5.3%と市場予想の 5.1%を上回ったことが好感された。指数は終値で前週末に比べ 1.6%高と反発し、2 カ月ぶりに 6100 ポイントに到達。その後は国内の重要イベントが少ない中、週末までこの水準を挟んでもみ合った。今週は 15 日に 7 月の貿易統計が発表されるほか、中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する。市場では、輸出額が 3 カ月連続で 2 桁増を達成するとの見方が優勢で、貿易収支が黒字を維持すれば好材料。17 日は独立記念日で休場となる。

▼指数チャート

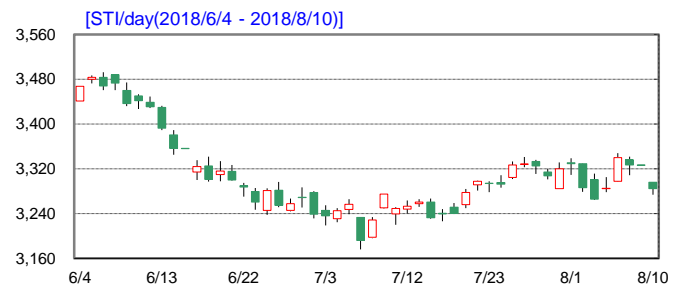


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.6%高、今週は 17 日に 7 月の非石油地場輸出発表

ストレーツタイムズ指数は 4 日間の取引で 0.6%高と反発。週前半の上昇が指数を支えた。6 日は 4-6 月期の純利益が前年同期比 16%増と好調だったオーバーシー・チャイニーズ銀行が買われ、指数は 3 営業日ぶりに反発してスタート。7 日は前日の NY ダウが続伸した流れを引き継ぎ、前日比 1.7%高と終値ベースで約 8 週間ぶりの高値を更新した。ただ、勢いは続かず 8 日に反落すると、祝日を挟んだ 10 日は金融株のほか、原油価格が下落した影響でエネルギー株も売られて、指数は前営業日比 1.3%安と続落して取引を終えた。今週は 17 日に発表される予定の 7 月の非石油地場輸出が焦点。

▼指数チャート

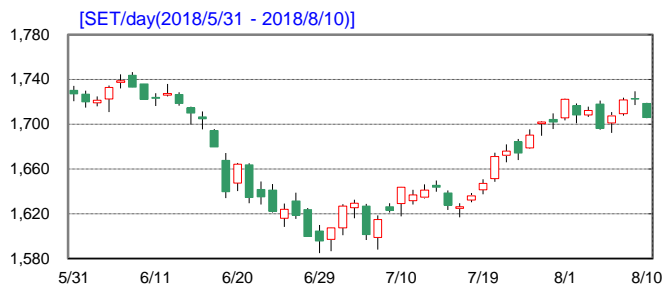


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%安、原油需要の減退懸念が足かせ

SET 指数は週間で 0.4%安と 6 週ぶりに反落。週末の下落が痛手だった。週初の 6 日は、前週末の反動で売り優勢の展開となり、指数は終値で 6 営業日ぶりに節目の 1700 ポイントを割り込んでスタート。一方、7 日は原油価格が上昇した効果でエネルギー株が買われて反発した。その後も 9 日までじりじりと上値を広げたが、10 日は長引く米中貿易摩擦の影響で、原油需要が減退するとの懸念が広がり、価格が下落したことを受けて、指数は前日比 1.0%安と 4 日ぶりに反落して引けた。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因が株式相場を左右しそうだ。13 日は母の日（王妃誕生日）の振替休日のため休場。

▼指数チャート

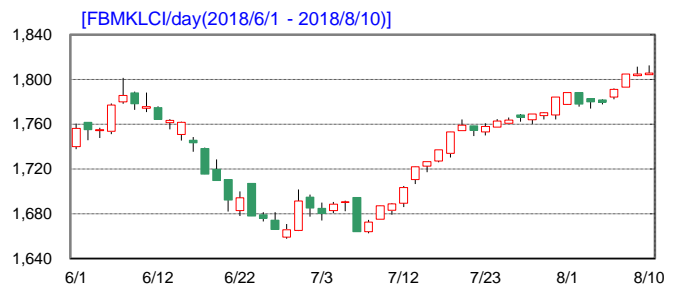


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 1.4%高、今週は 4-6 月期の GDP に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 1.4%高と 5 週続伸。おむね堅調な値動きだった。6 日は前週末の NY ダウが反発したことが好感された一方、中国が米国からの輸入品に対する追加関税措置を発表したことが嫌気されて小幅に反落。ただ、7 日に原油価格の上昇と、外国人投資家による買い越しを受けて反発すると、8 日には終値で約 2 カ月半ぶりに 1800 ポイントを回復し、週末まで 4 日続伸して取引を終えた。今週は、米国によるロシアへの追加制裁の動向や、トルコの通貨急落が不安定要素となる中、16 日に発表される予定の 4-6 月期の GDP 成長率が市場予想から上振れすれば株式相場の追い風になる。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合もあります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。